

JB
1735
BLANCPAIN
MANUFACTURE DE HAUTE HORLOGERIE

Ladybird



ブランパン Lady B.

可憐で、丸みをおびた、メカニカルウォッチ。



レディバード コレクションの70周年を祝し、ブランパンは1956年のレディバード ブレットにオマージュを捧げます。この歴史的なレディスウォッチは、女性として初めてスイスの時計メゾンを率いたブランパンCEOのベティ・フィスターの指揮のもと、ブランパンによって生み出されました。レディバード ブレットは、世界最小の丸型ムーブメントを搭載した、時計製造における画期的なタイムピースでした。そして今日、ブランパン Lady B は、ブランパンが受け継いできた機械式時計の小型化の伝統が受け継がれています。クォーツ式時計を製造しないというメゾンの信念に忠実に、ブランパンLady Bには、自社製キャリバー615を搭載。現代における最小クラスの動巻きの機械式ムーブメントのひとつです。直径19mm、わずか2.9cm³の球形ケースに、ダブルトゥールのカーフレザーストラップを組み合わせたブランパンLady Bは、まさにメカニカルジュエリーと呼ぶにふさわしい仕上がりです。スチールまたは18Kレッドゴールドで展開されるブランパンLady Bは、レディバード コレクションに新たな一章を刻みます。

主な特徴：

- Bは、ブランパンのB。レディバード コレクションの誕生70周年を祝して。
- ブランパンLady Bには、ベティ・フィスター、1950年代のデザイン、そして機械式時計の小型化という3つのストーリーが語られます。
- ブランパン Lady Bは、スイスの時計メゾンを率いた初の女性、ベティ・フィスターの指揮のもと、1956年に誕生したレディバード プレットから直接インスピレーションを得ています。
- レディバード プレットは、1956年に誕生したレディバード コレクション初のタイムピースです。
- 70年以上にわたり、ブランパンは時計の小型化をメゾンのシグネチャーのひとつとしてきました。
- ブランパンの哲学に忠実に、メゾンはこれまで一度もクォーツ式時計を製造していません。そのため、ブランパンLady Bもまた、完全な機械式時計として誕生しました。
- 1956年、キャリバーR55は、量産された丸型機械式ムーブメントとして世界最小サイズを誇りました(11.85mm × 3.7mm)。ブランパンLady Bは、現代における最小クラスの自動巻き機械式ムーブメントのひとつであるマニファクチュールキャリバー615(15.7mm × 3.9mm)を搭載し、そのレガシーを受け継いでいます。
- ブランパンLady Bは、直径19mm、体積わずか2.9cm³の球形ケースによって際立つ個性を放ちます。
- ダブルトゥールのカーフレザーストラップは、ホワイト、ベージュ、モカ、バーガンディ、ブルー、コーラル、パープルの7色からお選びいただけます。手首に二重に巻くデザインによって、ジュエリーのように身に着けることができます。
- ストラップは時計裏側のスロットに通す構造となっており、簡単に交換できます。
- スティールまたは18Kレッドゴールドで展開されるブランパンLady Bは、限定モデルではありません。レディバード コレクションに新たな一章を開くタイムピースです。
- ブランパンLady Bは、2026年9月17日よりブランパンブティックおよび正規販売店にて取り扱いが開始されます。



Bは、バブルフォルムのB

1950年代半ば、世界は進歩に対して、どこか純粋ともいえる揺るぎない自信を抱きながら未来を見つめていました。それは、やがて宇宙時代へとつながっていく、テクノロジーへの楽観に満ちた時代でした。科学、革新、そして未来への憧れが、視覚文化を大きく変えていったのです。建築、インダストリアルデザイン、自動車、ファッションは新たな姿へと生まれ変わり、直線的な造形は有機的なフォルムへと移り変わっていきました。

1956年、エーロ・サーリネンは、大小両方のデザインを手がけました。一本脚の台座によって家具デザインに革新をもたらした「チューリップチェア」、そしてニューヨークの象徴的な「TWAフライトセンター」です。チャールズ&レイ・イームズは有機的フォルムの探求を続け、一方でイサム・ノグチは彫刻とオブジェの境界を曖昧にしていきました。クリストバル・バレンシアガは、「サックドレス(1957年)」、そして「ベビードール(1958年)」によって女性のシルエットに革新をもたらします。自動車の世界では、ゼネラルモーターズの「ファイヤーバードIII(1958年)」が、象徴的なバブルコックピットによって立体的なボリュームを称えました。ブリュッセルでは、「アトムウム(1958年)」が球体を万国博覧会の象徴へと高め、1950年代のデザインと楽観主義を最も長く記憶にとどめるシンボルのひとつとなりました。レディバード プレットは、まさにこの創造的な時代背景の中で誕生しました。そして今、ブランパンLady Bは、その球形ケースを通じて、1950年代のバイオモルフィックなデザイン言語を受け継ぎながら、その精神を現代に蘇らせます。





ブランパンLADY B - 1956年に生まれたアイデア

ブランパンLady Bは、単なる復刻ではありません。1956年に生まれた、シンプルでありながら大胆な発想 - すなわち、ジュエリーほどのサイズの中に本格的な時計製造を収めるというアイデアを、現代的に再解釈したタイムピースです。レディバード プレットの精神に忠実でありながら、そのラインをそのまま写すのではなく、原点にある構想を受け継いでいます。

このビジョンは、時計の開発全体を導く軸となりました。その構造は、ブランパンの自動巻きキャリバー615を中心に設計されています。プロジェクトの初期段階から、このムーブメントの技術仕様を前提として、球形ケース、サファイアクリスタル、ポリッシュ仕上げのインナーリング、ケースを貫く一体型ストラップ、そして防水性能が並行して開発されました。これにより、かつてないほど小さな容積の中に、機械式ムーブメントを収めることが可能となったのです。

ブランパンLady Bは、伝統的なラウンドウォッチでも、いわゆるシェイプウォッチでもありません。ストラップを通すループはケースと一体化しており、ラグや目に見えるアタッチメントを持たず、ケースを直接貫く構造となっています。平面的なデザインではなく、立体として構想されたブランパンLady Bは、腕元に纏う、機械式のバブル。彫刻のような存在感を放つタイムピースです。



クォーツ時計は一本も存在しない

ブランパンLady Bは鼓動しています。そして、その事実がすべてを変えます。ブランパンは、これまで一度もクォーツ時計を製造したことがありません。時計業界が大きく変化した1970年代のクォーツショックの時代にも、そして今日においても決してありません。1735年以来、この選択は戦略ではなく、哲学です。ブランパンが生み出すすべての時計は、何よりもまず機械式時計であることを前提としています。したがって、ブランパンLady Bもまた、完全な機械式タイムピースとして誕生しました。

ブランパンLADY Bの心臓部

ブランパンLady Bを駆動するマニファクチュール キャリバー615は、直径15.70mm、厚さ3.90mmのムーブメントです。180個の部品、29石で構成され、38時間のパワーリザーブを備えています。振動数は3 Hz (21,600振動／時)です。プレートにはコート・ド・ジュネーブ仕上げが施されています。ケースバックの形状は、このローター特有の軌道に対応するように設計されています。1995年に発表されたマニファクチュール キャリバー615は、その後も継続的に改良を重ね、シリコン製ヒゲゼンマイの採用をはじめとする技術的進化の恩恵を受けてきました。数十年にわたる進化により、キャリバー615は信頼性と堅牢性に定評のある、実績あるムーブメントとして確立されています。

立体として構想された時計: 2.9 CM³

伝統的な時計が直径によって語られるのに対し、ブランパンLady Bのサイズは体積によって定義されます。2.9cm³。時計製造においては珍しい測定単位ですが、平面上に描かれるのではなく、空間の中で構想されたオブジェには、まさにふさわしい尺度です。直径19mm、厚さ13.2mmのブランパンLady Bは、磨き上げられた小石のように手のひらに収まります。そのフォルムは、自然と触れたいような魅力を備えています。手のひらにのせることは、ひとつの感覚的な体験です。指先の下でローターが動き出し、かすかな振動が、内部に機械式の心臓が鼓動していることを思い出させてくれます。

目に見えない複雑さ

ブランパンLady Bは、究極のシンプルさを湛えています。しかし、そのケースは、この時計を構成する要素の中でも最も複雑なもののひとつです。わずか2.9cm³の球体を形にするために、30枚を超える技術図面が必要とされました。ムーブメントを収めるため、ケースは上部と下部の2つのパーツで構成されています。ケースバックはベゼルよりわずかに小さく設計されており、時計を上から見たときには見えません。最大の課題は、この構造そのものを見えなくすることにありました。ベゼルとケースバックの接合線は、ボリューム、光、そしてポリッシュ仕上げの相互作用によって、意図的に目立たないようにされています。これほど小さな球体に、完全に連続したポリッシュ仕上げを施すことは、製造工程における大きな挑戦のひとつです。その結果、実際には見た目以上に複雑な構造でありながら、まるでひとつの塊から削り出されたかのような、一体感のあるフォルムが生まれました。

ストラップという挑戦

ブランパンLady Bにはラグがありません。ストラップは、無垢の金属に加工された開口部を通り、ケースを直接貫く構造になっています。10 × 1.6mmという極めて繊細な形状は、ひとつのパーツとして加工されています。内側にはマイクロプラスト仕上げが施され、レザーがなめらかに通るよう仕上げられています。一方で、シャープなエッジやローレット加工が施されている部分は、オートオルロジュリーの伝統的な仕上げ技法に基づき、カボション工具を用いてすべて手作業で仕上げられています。このスケールにおいては、わずかな手の動きひとつが決定的な意味を持ちます。

最も小さなディテールの仕上げ

スチールと18Kレッドゴールドで展開されるケースは、すべて手作業で仕上げられています。ポリッシュ仕上げ、サテン仕上げ、マイクロブラスト仕上げは、すでに組み上げられた時計に対して順を追って施されます。それぞれの面は、次の工程に移る前に丁寧に保護されます。エングレーピングでさえ、レーザーだけに委ねられることはありません。マニファクチュールが求める深さ、シャープさ、仕上げの品質を実現するため、機械式カッターによって加工されます。ブランパンLady Bは、時計製造における複雑さが、必ずしも複雑機構だけに宿るものではないことを思い出させます。複雑さは、わずか2.9cm³のオブジェを完璧に仕上げることの中にも存在するのです。

抑制の美学

ダイヤルは、究極のピュアさを湛えています。スチールモデルと18Kレッドゴールドモデルで共通するこのダイヤルは、ゴールドインレイによって生み出された温かなベージュのオパールカラーを纏います。あえてセッティングを施さず、素材と光そのものに語らせています。ブランパンの伝統に倣い、アブライドバーインデックスはゴールド製です。わずか1.82 × 0.39mmというサイズのインデックスは、ブランパンLady Bにおける驚くべきミニチュア化の水準を物語ります。上面と側面にはポリッシュ仕上げが施され、繊細に光を捉えます。2本の針は、意図的に控えめなデザインとされ、ピュアさと視認性を追求する姿勢を引き継いでいます。全面にポリッシュ仕上げが施されたインナーリングは、鏡のような役割を果たします。その反射がケースの曲線を広げ、ひとつの塊から削り出された球体のような印象をさらに強めます。装飾のためのだけの要素はありません。過度に視線を引こうとするものもありません。ダイヤルが示すのは、見る人の目が自然に選び取るものだけです。すなわち、時刻と控えめなブランパンロゴ。リューズにはJBのイニシャルが刻まれ、ブランパンの歴史へのもうひとつのオマージュとなっています。

ジュエリーのように身に着ける時計

それぞれのブランパンLady Bには、ダブルトゥールのカーフレザーストラップが組み合わせられます。カラーは、ホワイト、ベージュ、モカ、バーガンディ、ブルー、コーラル、パープルの7色からお選びいただけます。ピンバックルで留めるストラップは、手首に自然に巻きつき、ブランパンLady Bを真のジュエリーへと変化させます。テラードスーツに寄り添い、白いシャツの袖口の内側にさりげなく収まり、ブレスレットやリングのコレクションと響き合い、あるいはそれ自体で存在感を放ちます。ブランパンLady Bは、スチールおよび18Kレッドゴールドで展開されます。



Bは、ビジュのB

単なる時計でも、単なるジュエリーでもありません。かつてのレディバードと同じように、ブランパンLady Bはひとつの 카테고リーに収まりきらない存在です。それは時計であり、ジュエリーであり、デザインオブジェでもあります。しかし、その一見シンプルな佇まいの奥には、1735年以来ブランパンを導いてきたひとつの信念が宿っています。時計は、何よりもまず時計でなければならない、という信念です。その価値は、すぐに目に見えるものではありません。ケースを覆うダイヤモンドセッティングはなく、ダイヤルを彩るマザーオブパールもありません。ブランパンLady Bは、それを身に着ける人、そして見るべきものを見極めることのできる人にだけ、その本質を明かします。この静かな佇まいの内側には、オートオルロジュリーの基準に則って装飾された自社製キャリバーが息づいています。

おそらく、ブランパンLady Bの逆説はここにあります。

- 現代的に見えながら、そのルーツはブランパンの歴史の奥深くに息づいています。
- シンプルに見えながら、数十年にわたる技術的創意を受け継いでいます。
- ジュエリーのように姿を現しながら、揺るぎなく機械式であり続けています。

何よりもブランパンLady Bは、これらの考えがトレンドとなるはるか以前に、ベティ・フィスターが理解していたことを私たちに思い起こさせます。知性、シンプルさ、そして美しさは、互いに相反する価値ではなく、ともに寄り添うものなのです。

ブランパンLady Bは、ブランパンにとって新たな歩みの始まりを告げるタイムピースです。歴史を記念する時計もあれば、歴史を受け継ぎ、未来へとつなぐ時計もあります。ブランパンLady Bは、後者に属する存在です。



Bは、ベティのB

1912年、彼女はスイス・ジュラ山脈のヴィルレにあるブランパンの工房で見習いとしてキャリアを始めました。当時、彼女は16歳でした。1968年に退職するまでに、彼女はマニファクチュールのオーナーとなり、スイスの時計マニファクチュールを率いた初の女性となるという、卓越したキャリアを築き上げました。この驚くべき偉業は、女性にまだ参政権が認められていなかった時代において成し遂げられたものでした。

1932年、ブランパン家の7代目にして最後の経営者であったフレデリック＝エミール・ブランパンが急逝し、メゾンは大きな転機を迎えます。2世紀にわたる歴史の中で初めて、ブランパンの未来に暗雲が立ち込めたのです。事業を継承する意思を持つ一族の後継者がいない中、ベティ・フィスターと営業責任者のアンドレ・レアルは、大胆な決断を下します。複数の貸し手から融資を受け、マニファクチュールを取得したのです。こうして1933年、ベティ・フィスターはブランパンの共同オーナーとなりました。当時のスイスの法制度では、創業家の一員が経営の舵を取らない限り、社名としてブランパンの名を単独で使うことが認められていませんでした。そのため、マニファクチュールは Fabrique d'Horlogerie Rayville S.A. (Rayville Watch Manufacturing Co. Limited) へと改称されます。Rayville は、Villeret の首を組み替えたアナグラムでした。

当時は大恐慌が猛威を振るい、スイス時計製造業界にとって極めて困難な時代でした。第二次世界大戦前夜に、パートナーであったアンドレ・レアルもこの世を去ります。ベティは、ひとりでメゾンの舵を取ることにになりました。スイスの女性にまだ参政権が認められていなかったこの時代、(女性の参政権が実現するのは、1971年のことです。)ベティは女性として初めて200名を超える従業員を擁する時計マニファクチュールのオーナー兼経営者となったのです。

彼女が掲げたビジョンは、ブランパンの国際的な存在感を、とりわけアメリカ市場において高めることでした。ブランパンは、グリュエン、ルシアンピカル、エルジン、ハミルトンといったアメリカの主要メゾンにムーブメントを供給する重要な存在となる一方で、自社製造を際立たせる高度な技術力も守り続けたのです。

ベティが特に優れた洞察力を発揮した分野のひとつが、女性のための時計でした。彼女は、女性用タイムピースにも、他のあらゆる時計と同じように、独創性と機械式時計としての本質が求められることを理解していました。そして、この分野をブランパンの際立った強みのひとつへと成長させたのです。1950年、甥であるジャン・ジャック・フィスターが彼女のもとで働き始めます。ベティは彼を経営陣に迎え入れる前に、事業のあらゆる側面を学ぶための1年間の研修プログラムを用意しました。その後、ベティの経験と実務的な判断力、そしてジャン・ジャックの好奇心と革新への意欲が結びつき、ふたりはその後20年にわたりブランパンの歩みを形づくっていきます。ふたりは共に、1953年にフィフティ ファズムス、そして1956年にレディバードと、現在のブランパンを語るうえで欠かすことのできない2つのタイムピースを生み出しました。

ベティ・フィスターは、マニファクチュール以外では、ヴィルレの自宅、レマン湖畔のピュリーに構えた邸宅、そしてコート・ダジュールのカーニュ＝シュル＝メールにあるヴィラを行き来しながら過ごしていました。常に非の打ちどころのないエレガンスを纏っていた彼女は、天然真珠のネックレスやブローチを身に付け、ニナリッチのレールデュタンをシグネチャーフレグランスとして愛用していました。彼女の暮らしの傍らには、ジョルジュ・ルオー、ピエール＝オーギュスト・ルノワール、マルク・シャガール、モーリス・ユトリロ、メアリー・カサット、ルネ・オーベルジョノワの作品がありました。

ベティ・フィスターは、自らの功績が称えられることを望む人ではありませんでした。しかし彼女の存在なくして、ブランパンの歴史はまったく異なるものになっていたでしょう。彼女は、極めて不確実な時代を乗り越え、マニファクチュールを守り抜きました。そして、女性用の機械式時計がまだ正当に評価されていなかった時代に、その価値を力強く支持しました。さらに彼女は、今日のブランパンを導く価値観 - 控えめであること、本質を備えていること、そして機械式時計製造の永続的な価値に対する揺るぎない信念 - を築くのに貢献しました。ベティは、ヴィルレで働く従業員たちだけでなく、村全体からも深く愛される存在となりました。歴史ある工房を見下ろす丘の上に佇む彼女の胸像は、その人生と功績を今に伝える永続的な記念碑です。ブランパン Lady Bは、彼女の残したレガシーそのもののなのです。



R52/R55、世界最小の丸型ムーブメント

1956年のレディバード プレットに込められたブランパンの志は、極めて大胆なものでした。それは、世界最小の丸型機械式ムーブメントを生み出すだけでなく、堅牢性をも兼ね備えたムーブメントを実現することでした。その成果は、ミニチュア化における大きな偉業となりました。直径わずか11.85mmのオリジナルのレディバード キャリバーは、2つの重要な革新によって、記録的な小型化と確かな堅牢性を両立させたのです。

第一の革新は、輪列に5番車を追加したことでした。一般的な機械式ムーブメントは、香箱から秒車に至るまで4つの部品で構成されています。パティ・フィスターの解決策は、そこにもうひとつの車を加えることで、脱進機へ伝わる力を制御し、キャリバー全体の寸法を抑えるというものでした。第二の革新は、テンプに耐衝撃機構を備えたことです。当時、多くの極小ムーブメントでは耐久性を犠牲にしてこの機構が省かれていました。しかしブランパンは、レディバード キャリバーの極めて小さな寸法に適應する形でこの機構を組み込む方法を見出しました。その結果、指先ほどのサイズでありながら、当時の他の小型キャリバーとは異なり、堅牢なムーブメントが誕生したのです。

その結果として誕生したのが、サイドワインド仕様のキャリバーR55です。その後すぐ、派生型としてバックワインド仕様のキャリバーR550も加わりました。後者は、リューズを時計の裏側に隠すことでケース側面をすっきりと保ち、ジュエラーたちに新たな表現の領域を開きました。一方、R55は3時位置にクラシックなリューズを備えています。いずれのキャリバーも3Hzの振動数で駆動し、個別に加工された133個の部品で構成されています。それらの部品は、1/2000mmという極めて厳格な許容範囲で検査されました。当時の広告で「例外的に重い」と表現されたテンプには、22個の無垢ゴールド製ビスが取り付けられ、40時間以上のパワーリザーブを実現しています。R55は現在に至るまで、量産された丸型機械式ムーブメントとして世界最小の存在であり続けています。





発表当時、ブランパンはレディバードを「技術的な奇跡」として紹介しました。1956年のパーゼルで開催されたスイス産業見本市で披露されたこのタイムピースは、「通常サイズの時計が持つ全ての精度と信頼性」をかつてないほど小さなサイズの中に凝縮しているとして称えられました。

R55の成功は、瞬く間にブランパンの枠を超えて広がりました。その細密な構造は、オメガやロンジンをはじめとする多くの時計メゾンを魅了し、各社は自らのクリエイションにこのムーブメントを採用しました。ブランパンにおいても、R55はまったく新しい表現の領域を切り拓きました。つまり、極めて小さなサイズから、数々のジュエリーウォッチを生み出すきっかけとなります。ゴールドブレスレットやカフウォッチ、装飾石をセットしたバングル、コーラルやハードストーン、ダイヤモンドを組み合わせた大胆な構成、さらにはリング、ペンダント、カフリンクスへと、その可能性は広がっていきました。キャリバーの小型化は、デザイナーにかつてない創造の自由をもたらし、レディバードをジュエリー表現の真の実験場へと昇華させたのです。

ブランパンのアーカイブに極めて良好な状態で保存されている、これら約30点の歴史的なクリエイションが、レディバードの世界に捧げる巡回展で初めて一堂に会します。2026年、本展はブランパン ニューヨーク（9月14日から20日）、ブランパン 上海新天地（9月17日から27日）、ブランパン パリ フォーブール・サントノレ（10月15日から24日）、東京・表参道のStandByギャラリー（10月17日から25日）、ソウルのYouthquake（11月11日から15日）を巡回します。2027年以降も、さらなる都市での開催を予定しています。

技術詳細

BLANCPAIN LADY B
REF. 0064



ムーブメント	ブランパン マニファクチュール キャリバー 615
巻き上げ方式	自動巻き
直径	15.70 mm
厚さ	3.90 mm
部品数	180
石数	29
振動数	3 Hz (21,600振動/時)
パワーリザーブ	38時間
装飾	コート・ド・ジュネーブ仕上げ
ヒゲゼンマイ	シリコン製

ケース	スチールまたは18Kレッドゴールド
直径	19.00 mm
厚さ	13.20 mm
体積	2.9 cm ³
防水性能	3気圧 (30 m)
構造	プレスレットを通す一体型の開口部を備えた2パーツ構成のケース

文字盤	オパール
装飾	なし
インデックス	ゴールド製のアブライド ポリッシュ仕上げスティック針 (レッドゴールドモデルはレッドゴールド製、スチールモデルはグレーゴールド製)
針	時、分

ストラップ	カーフレザー
タイプ	ダブルトゥールのカーフレザーストラップ
幅	10 mm
バックル	ピンバックル
色展開	ホワイト、ベージュ、モカ、バーガンディ、ブルー、コーラル、パープル

限定版	いいえ
価格	Stainless steel: CHF 9,500 / red gold: CHF 14,500

JB
1735
BLANCPAIN
MANUFACTURE DE HAUTE HORLOGERIE